

評価計画				自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策
重点目標	具体的目標	具体的取組事項	評価指標	評価	取り組み状況と課題	評価	意見	
多様な人との関わり場を設ける	地域と連携した教育活動を推進する	まちキャン、ふるさと学、ユネスコ推進事業（石見銀山保全活動）、インターンシップ、地域行事への参加、地域清掃活動	評価アンケート	B	QSE+：「地域」生徒93（昨年93）%、保護者84（昨年78）%。ふるさと学1年ガイドブック作成、2年サロン運営。キャリア探究3年弥山荘企画。人文・自然コース短期インターンシップ実施。外部団体主催「マイプロジェクト」を含む生徒の自主的な活動。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の自己評価は厳しい。地域と連携した教育活動等よく取り組んでいる。</li> <li>・生徒募集については、地元の邑智郡内の生徒が増えるように期待する。</li> <li>・入学者のある程度の選別や学校の魅力の見直しが必要ではないか。国公立大学の入学者が少ない。生徒には高い志を持って欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちごとキャンパス構想の改訂版を策定し、地域と連携した活動の一層の充実を図る。</li> <li>・学校魅力化事業の一層の充実のため、魅力化コーディネーターが増員される。</li> <li>・全ての部活動において最低年1回は地域行事に参加するなど地域との交流を促進する。</li> <li>・特に県内や地元中学生への募集に力を入れ、引き続き生徒募集に積極的に取り組む。</li> <li>・寮生の生活保障や学習支援の積極的な改善に一層取り組む。</li> <li>・寮務部の充実のため1名増員し、部会を毎週定期的に開催する。</li> </ul>
	部活動、学校行事、体験活動を充実させる	部活動充実、学園祭充実、生徒会活動支援、地域系部活動充実、マイプロ支援、中高連携授業、国際交流活動、PTAと連携した行事、三瓶研修、クラス活動	評価アンケート	B	QSE+：「部活動」生徒88（昨年85）%、保護者88（昨年88）%。部活動加入率92.5（昨年95.4）%。カヌー国体・全国総体入賞、吹奏楽全国大会出場、写真来年度全国総文祭出場。地域系や家庭クラブ、生徒会等大半の生徒が課外活動参加。QSE+：「行事」生徒78（昨年75）%、保護者86（昨年82）%。ボランティア参加。中高連携授業・国際交流活動実施できず。			
	広い地域から多くの生徒を受け入れる	生徒募集、学校案内・DVD作成、女子生徒確保の方策、オープンスクール、学校説明会、中高連絡会、部活動説明会、学校見学者対応、寮生対応、罹病時対応、環境整備、まち親さんとの交流	評価アンケート	B	オープンスクール78（昨年75）校181（昨年201）名参加。県外生徒募集に合わせ現地保護者面談、地区PTAを実施。QSE+：「情報」保護者84（昨年78）%。フェイスブック週1回更新、マチコミメール、ホームページ等情報発信。QSE+：「寮」生徒62（昨年73）%、保護者86（昨年92）%。			
豊かな人間性と社会性を養う	多様性を認め、自他を尊重する意識と態度を育てる	人権同和教育LHR、生徒じんけん教育推進委員会支援、人権教育講演会、教職員研修、関係作り、学級作り、いじめ防止、命の大切さ指導、入学時指導・支援、授業環境作り、寮生指導	評価アンケート	B	QSE+：「人権教育」生徒93（昨年87）%、保護者63（昨年57）%。LHR1年3H、2年3H、3年3H実施。講演会（人権教育・人権を考える集い）、生徒じんけん委員会参画。人権調査（友人関係は良好、自己肯定感低い）	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理整頓や授業態度、規律の徹底等きちんと指導して欲しい。</li> <li>・多様な生徒の指導について、学校教育、社会教育にプラスして家庭教育まで学校が殆ど全てを担っている部分があり、教員は本当に大変だが、今後の改善を期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導に当たる生徒部、保健部、寮務部の連携を一層密にするように心掛ける。</li> <li>・問題行動を未然に防止するためその場指導を徹底する。</li> <li>・特別な支援を要する生徒などへの対応について会議や研修等を通じて生徒理解に努める。</li> <li>・寮生の罹病予防策の一つとしてインフルエンザ予防接種率を一層上げる。</li> <li>・副担任2人制を全ての学級で実施し、複数の教員で協力して生徒の支援・指導に当たる。</li> <li>・授業規律の確保や生活指導について全教職員で共通認識を持ち共通指導する。</li> <li>・学習環境の改善として学習規律の徹底やユニバーサルデザインの視点を持った授業を促進する。</li> <li>・寮務部が嘱託舎監と月1回会議を開き、寮生の状況を共有し、集団生活の約束を継続的に指導する。</li> </ul>
	生徒理解を深め、適切な指導・支援を行う	生徒サポート委員会、各種アンケート（QU、学校生活）、人権意識調査、個別面談、SCとの連携、教職員研修（情報共有・特別支援）、健康観察	評価アンケート	C	生徒サポート委員会週1計24回開催。QSE+：「教員との相談」生徒86（昨年80）%、保護者84（昨年78）%。QU教職員研修。学校生活アンケート実施、学年集会。QSE+：「健康支援」生徒75（昨年71）%、保護者77（昨年78）%。生徒傷病対応。寮生インフルエンザ予防接種実施。月2回SC実施、希望者多数。			
	集団としての規律を保ち、よい習慣を身につけさせる	挨拶・服装・交通指導、ふるまいや言葉遣い指導、清掃指導、情報モラル・薬物乱用防止指導、寮生指導、自主的な寮運営。朝読書、授業終始の礼法、授業規律の確保	評価アンケート	C	QSE+：「規律指導」生徒78（昨年81）%、保護者77（昨年78）%。挨拶良好。服装等継続指導。整理整頓や持ち物管理できない生徒多い。授業規律に課題。朝読書2週間3回実施。出席率98.3（昨年98.3）%、皆勤率35.7（昨年27.8）%。			
自ら未来を切り拓く力を育てる	「生徒が育つ授業」を進めながら学力の育成を図る	授業改善、授業研究、教科研修、校内外研修、新学習指導要領への対応、ICT活用、学習時間調査、授業評価アンケート、模試分析、業者説明会の情報提供、学習サポート、補習授業、各種模試、自習教室の開放	評価アンケート	C	QSE+：「授業」生徒85（昨年80）%、保護者68（昨年71）%。全科目で新指導要領に応じた研究授業を実施。ICT活用・学力育成の研修実施。試験期間中の学習時間は平均201（昨年157）分。学習習慣の確立、学力の育成、学習への意欲が課題。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学実績が少し落ちてきている。部活動だけでなく、進路指導や勉強面においても力を入れてほしい。</li> <li>・進学ゼミに期待したい。具体的な進路指導、教科指導を行い、生徒に目標を持たせて欲しい。</li> <li>・大学入試制度の改革など保護者のニーズを把握して保護者向けの情報発信に努めて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学びの授業」実践のためにICT機器の利用や授業法について研究授業や授業互見を実施し改善に取り組む。</li> <li>・総合的な探究の時間も含め、3年間の見通しを持った効果的な進路指導の計画を立てる。</li> <li>・学年に応じた節目ごとの進路指導を進路集会の形で行い、生徒の進路に対する意識の醸成を図る。</li> <li>・進路説明会の開催や、ホームページやマチコミメール等での進路情報の保護者への発信に努める。</li> <li>・後援会の協力も得て継続的な補習を実施するなど、進学ゼミの活動内容を充実させ、生徒の進路実現に向けて取り組む。</li> <li>・個別の面談を通じて生徒一人一人に応じた進路選択ができるように支援する。</li> </ul>
	将来の目標を持たせ、その達成に向けて取り組ませる	進学ゼミ強化、個別指導、面接・小論指導、大学・企業訪問、進路ガイダンス、講演会、先輩講話、進路希望調査、大学入試改革への対応、進路別に意識を高める指導、コース科目選択への指導、進路学習LHR	評価アンケート	C	QSE+：「進路情報」生徒84（昨年79）%、保護者73（昨年69）%。保護者への情報提供が必要。進学ゼミ強化（県外大学見学・勉強合宿・長期休業中補習・学習ルーム利用）。			
	一人一人の個性を生かしたキャリア教育を推進する	総合的な学習・探究の時間、キャリア教育の体系化・計画的な実施、大学との連携、個人面談、個性を生かした進路指導、進路検討会、コース選択検討会、生徒レポート	評価アンケート	C	QSE+：「満足感」生徒76（昨年75）%、保護者94（昨年94）%。キャリア教育全体計画作成（教科指導・特別活動・総合的な学習・探究の時間等を通じて生徒を育てる3年間を見通した計画）。教員間の共通理解を図ることや生徒の成長の段階的な評価が課題。			